

2

みんなで作る  
健やかなまち

① 児童福祉の充実

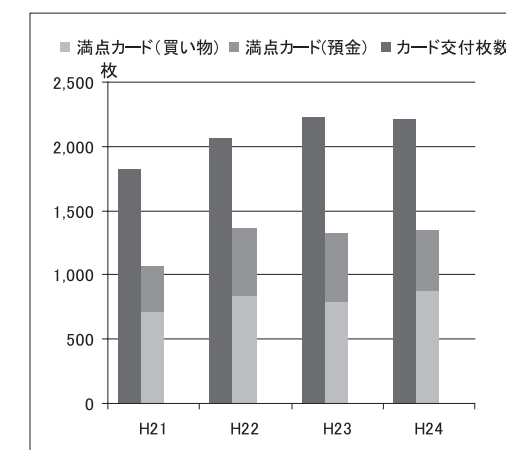
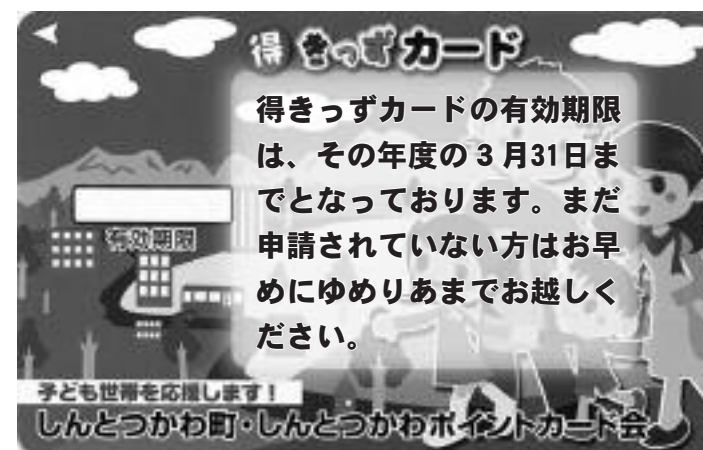
得きっずカードの発行

274万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

妊婦や中学生までの子どもがいる世帯を経済的に支援するため、子育て世帯専用のポイントカード「得きっずカード」を1世帯につき5枚交付しています。満点になると町から1枚につき4,500円の上乗せ助成が受けられます(平成24年度までは1枚につき2,000円)。

平成24年度は、対象521世帯のうち442世帯(85%)に計2,210枚の得きっずカードを交付しました。満点カードになって使用されたものは1,338枚(61%)で、うち868枚(65%)が町内での買い物に使用されました。



子育て支援センターの運営 277万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

子育て支援センターでは、保育士の資格を持つ2人の指導員を配置し、子育て中の保護者の皆さんのサポートや、悩みのケアなどを行っています。

より上質な育児支援を行うため、指導員は年に数回スキルアップ研修を受けています。

また、育児サークルなどの活動のため、事務用品や画用紙などの材料のほか、毎月子育て雑誌を購入しています。

<平成24年度利用者数>

一般利用	3,813人
育児サークル活動	964人
年齢別活動	843人
子育てスクールなど	812人
合計	6,432人

子育てスクールの開催 23万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

子育てからのリフレッシュや、育児ストレスの解消、親子のふれあいを目的として、子育てスクールを16回開催しました。主な内容はヨガ、軽スポーツ、音楽遊び、親子運動会、人形劇などで、延べ691人の親子が参加しました。

また、子育てスクールでは、子育てボランティア新十津川町だっこの会の協力で、託児を行うことがあり、平成24年度は小学校の学芸会や卒業式などの託児も合わせ、延べ288人の託児を行いました。



**保育園の運営 6559万円**

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

保育園の運営は、学校法人華園学園を指定管理者として委託しています。平成25年3月1日現在の入園児童は64人です。

疾病や一時的な仕事のための一時保育は、延べ利用者数36人、保育実日数112日で、延長保育は延べ利用人数28人、保育実日数35日でした。



**児童館の運営 710万円**

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

児童館では4人の児童厚生員が放課後や休日など、子どもたちが安心して遊べるよう、さまざまな行事や遊びを行っており、1年間で延べ17,400人の児童が遊びに来ました。

また、児童の遊びを通じての指導や保護者からの子育て相談に対応するため、子育て支援アドバイザー1人を配置しています。



**子ども手当・児童手当の支給 9405万円**

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

中学生以下の子どもを養育している方に、6月、10月、2月に支給しました。

<支給額>

3歳未満	15,000円
3歳以上(第1、2子)	10,000円
3歳以上(第3子以上)	15,000円
中学生一律	10,000円
特例給付	5,000円

※特例給付は、受給者の所得が所得制限額を超過した場合に支給されます。

**子ども夢基金への積立金 30万円**

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

子ども夢基金は子どもの健全な育成と、子どもを安心して育てることができる環境づくりを支援することを目的に、平成22年に創設した基金です。

現在、2億円の積立金(原資)と利息を合わせた基金残高は、2億62万円となっています。

今後、町の財政が厳しくなっても、でき次第カードや医療費の助成など、目的に沿った基金の活用を目指します。

**② 障がい者福祉の充実**

**障がい者への福祉サービス・支援 2億966万円**

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

障がいのある方が、住み慣れた地域で安心して自立した生活をするため、介護の支援や就労の訓練などを行う「障がい福祉サービス」、移動や入浴などの支援や生活用具の支給などを行う「地域生活支援」を実施し、個々のニーズに応じたサービスの提供や支援を行いました。

**地域活動支援センター負担金 703万円**

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

障がいのある方が、自らの意思で自立した生活ができるよう、創作的活動や生産活動を行なう場である地域生活支援センターの運営費の一部を負担しました。

地域活動支援センターは、ゆめりあ内の「あざれあ工房」と砂川市の「ぼぼろ」が指定を受けています。



**更生医療費の助成 1849万円**

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

身体障がい者が人工透析などで必要とする医療費を、それぞれの所得区分に応じて助成することで、経済負担の軽減を図りました。

毎月、社会保険診療報酬支払基金や、国民健康保険団体連合会から送られてくる更生医療対象者のレセプト請求に応じて支払いをしました。

	H21	H22	H23	H24
対象者(人)	21	24	18	23
助成額(万円)	2,211	1,687	1,504	1,849

**施設通所等交通費の助成 40万円**

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

療育指導を受けるために児童デイサービスを利用している児童が子ども通園センターへ通うための交通費や、重症心身障がい者(児)が機能訓練のために旭川市の療育センターに通所するための交通費、在宅の精神障がい者が社会復帰施設に通所するための交通費について、それぞれ一部を助成し、経済負担の軽減を図りました。

	H21	H22	H23	H24
障がい児児童デイサービス通園交通費助成				
対象者(人)	実施していません	20	24	25
重症心身障がい者(児)機能訓練交通費助成				
対象者(人)	7	7	8	7
精神障がい者社会人復帰施設等通所交通費助成				
対象者(人)	9	8	7	6



### ③ 高齢者福祉の充実

#### シニアいきいきクラブ 8万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

平成23年度から60歳以上の方の新たな趣味作りを目的として始めた「シニアいきいきクラブ」ですが、平成24年度はパークゴルフ、剪定・芝管理・造園、ヨガ、パッチワークの4教室を開催し、延べ34人が参加登録しました。このうち、ヨガ教室は平成24年10月から自主サークルとして活動を開始しました。



#### レクワーカー養成講座 26万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

平成23年度から町民の健康づくりを目的にレクレーションの指導員を養成する講座を開催しています。

平成24年度は5回開催し、延べ51人が受講しました。



#### ふるさと学園大学 58万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

高齢者の学習意欲の向上や健康増進などを目的とした講義を、平成24年度は9回開催しました。

220人が入学し、修了者（7回以上の出席）109人、うち皆勤者は50人でした。



#### 長寿を祝う会 104万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

喜寿（77歳）及び、傘寿（80歳）以上の高齢者を対象に実施する「長寿を祝う会」の開催を支援しました。

平成24年度は8月30日に農村環境改善センターで実施され、来賓を含め399人が出席しました。



#### 高齢者等の福祉除雪 324万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

高齢者や障がい者世帯の冬期間における除雪の不安を解消し、在宅生活を確保するため11月から3月までの期間、除雪サービスを実施しました。除雪サービスの範囲は、玄関から道路までの人が通れる程度のスペースとベランダと窓（家の中で一箇所）です。平成24年度は46人が利用しました。



#### 高齢者等の住宅改修支援 69万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

高齢者や障がい者等が少しでも自立した生活を送ることができるよう、住宅改修を行う際に、改修内容を審査して該当した改修項目について、経費の3分の1を補助しました。

平成24年度は3件が該当し、段差の解消や手すりの設置、床材の変更等の改修を行いました。

#### 緊急通報システムの設置 10万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

ボタンを押すと消防署につながる緊急通報システムの設置にかかる費用を負担し、高齢者や障がい者の不安の軽減を図り、緊急時の迅速な対応を行いました。

平成24年度には68世帯の利用があり、消防署への通報は12件、うち救急隊の出動は4件でした。



#### 介護予防のための通所型サービス 520万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

高齢者の要介護状態への移行を予防するため、運動機能の維持や向上、認知機能低下予防のためのデイサービスをゆめりあで行い、延べ1,093人が週1回ずつ、継続して参加しました。

また、冬期間の体力の低下を予防するための運動教室を、全地区を対象を拡大して実施し、延べ549人が参加しました。



## ④ 健康づくりの推進

### がん検診

580万円

(担当：保健福祉課健康推進グループ)

がんの早期発見・早期治療のために、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、子宮頸がん、乳がん検診を実施しました。

節目年齢の女性の方に子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン券の配布及び平成23年度から追加された節目年齢の方に対する大腸がん検診無料クーポン券の配布を実施しました。

また、町独自の取組みとして、30歳代の女性を対象に乳がん検診を実施しました。



### ヒブ・小児用肺炎球菌予防接種 267万円

(担当：保健福祉課健康推進グループ)

ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン予防接種を指定医療機関で受けた、生後2か月から5歳未満児の接種費用の全額を助成しました。

#### <豆知識>

ヒブ（インフルエンザ菌b型）による細菌性髄膜炎は、5歳未満の乳幼児がかかりやすい病気です。

また、肺炎球菌による髄膜炎や肺炎は、2歳未満の乳幼児がかかりやすい病気です。

#### <平成24年度助成実績>

	ヒブ	小児肺炎球菌
助成人数(人)	139	144
助成額(万円)	113	152

### 妊婦健康診査・相談 284万円

(担当：保健福祉課健康推進グループ)

妊婦を対象に、妊婦一般健康診査費14回分と超音波検査費6回分の妊婦健康診査費、1人当たり合計83,640円を上限に助成しました。

また、母子ともに健やかな妊娠経過をたどり、出産を迎えられるよう、母子手帳交付時と妊娠期間中に健康相談と栄養相談を実施しました。

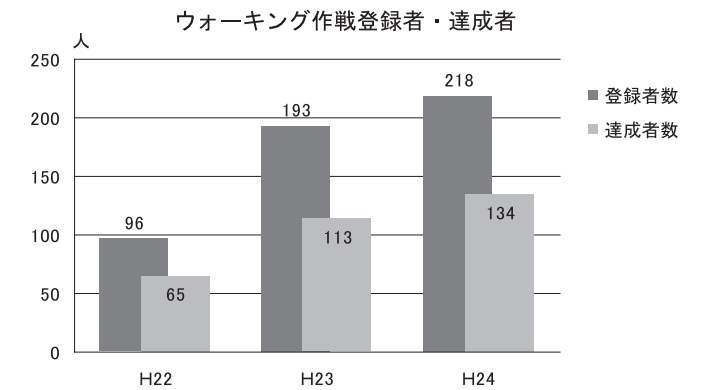


### 健康づくりの普及・啓発

288万円

(担当：保健福祉課健康推進グループ)

自分の健康に関心を持ち、自ら健康づくりに取り組めるよう、ウォーキングの普及、啓発などを行い、運動習慣の定着を図るとともに町民一人一人が健やかな生活が送れるよう健康の維持増進に努めました。



## ⑤ 医療環境の充実

### 中学校卒業までの医療費実質無料化～乳幼児等医療費の助成～ 2230万円

(担当：住民課戸籍保険グループ)

子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもの健康管理を支援するため、0歳から中学生までのお子さんが病院で診察を受けたときの保険医療費の全額を助成しました。

#### <平成24年度の助成実績>

	全体		未就学児		小学生		中学生	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
入院	81	3,643,018	63	2,350,007	13	966,076	5	326,935
通院	5,119	10,061,300	2,617	4,431,194	1,788	4,027,944	714	1,602,162
歯科	915	2,212,936	286	607,390	507	1,226,171	122	379,375
調剤	3,634	4,609,812	2,042	2,070,288	1,172	1,941,759	420	597,765
その他	128	955,486	41	346,621	46	389,183	41	219,682
合計	9,877	21,482,552	5,049	9,805,500	3,526	8,551,133	1,302	3,125,919

は町独自助成